

賛成派

発言者名

反対派

賛成派主張の論旨

必ず確認

反対派主張の論旨

D (佐々木) 12世紀から続く捕鯨文化、鯨はあらゆる生活用品になる
改正で食文化が衰退 消滅している。

1992年度捕鯨の禁止 (当時90年に再開予定だった)

調査捕鯨は科学的データをとるための適切な頭数

規則が不十分で無駄なく使われていないから

目視調査もIWCに委託したうえでやっている

頭数は横ばいもしくは上昇 ミニクニタリゴが増えている

鯨の座礁 → 数が増えつつある沿岸にはまだ多い

ミンクジウは ショウガスジウの餌を食べてしまっている

食文化、調査のため内流通が滞っている。増加ペースは緩慢

賛成派反論の論旨

(7222) 国際司法 → 捕鯨を止めようとしているわけでもない

鯨の消費量 → 1986 ~ (1982に調査捕鯨禁止したから0kgの制限)

人口増加による食料不足 → 鯨を食べてもよいのでは

水銀濃度 → 今でも肝臓で水銀を無害に下ろす

肉は基準値以下

(7227) シーシェパードの活動は人命にかかわる → 捕鯨をやめれば人命が助かる

(7228) 裁判の非正当性 → 裁判のコメント (個人的感情が反映している)

科学的根拠が乏しい → 判決をいそいだ

賛成派再反論の論旨

(7229) 目視

内臓物の汚染物質 → 胃や腸を洗ってしまえばいい

雌雄の割合 → 体内にある水銀は洗っても残る

(7230) 鯨肉を食べる機会が少なくなっている。月間調査は機会を増やす?

(7231&7232) 文化 アラスカでは鯨は木で加工している

一部でも認める

(7233) 捕鯨は3つの船でやっている → コストはかかるがレジャー

おまけに金も残っている

賛成派総括

反対派総括

(7234) 文化・調査

賛成派議論に対して反対派は徐々に減っている

とていつになる理由

捕鯨は食料不足の可能性もある。クジラ一頭で多くの食料がとれる

(7235) 調査はとるが食べられないから

食べられないのは他の海洋資源の競争に勝てないから

(7236) インターネットでは鯨をえさにする

小売店でも鯨を売っている

水銀基準値 クジラ自体の水銀値が低いことを考慮すればいい

販売促進をしようとしても売れない → 需要がない

調査捕鯨によって結論づけられることは何もない

需要がなく、金のみで使っている

(復興予算で)
つぎは

1970年まで 鯨はクジラ肉としてしか見られていなかった

食文化ではなかった

判定 → ジャッジはどちらの論旨に納得したか次の評価欄に○を記入。その理由をその場で講評してください。